

多様性の時代に

当予備校主催の高校生海外学習プログラムでシンガポールを訪問した時のこと。インド系住民が多く住む「リトルインドア」でカレーを注文した際、生徒がどう食べたらよいのかを私に聞いた。バナナの葉に盛りつけられたのはカレー3種とライスのみ。スプーンやフォーク類は一切なかった。私は、隣のインド人を



中萬学院
大学受験指導事業部長 井川 隆成

見てまねをするように、と言った。

すると彼は右手の3本の指を巧みに使ってテンポよく平らげ、バナナの葉を手前から奥側に折り返して、自慢げな顔をした。

「教育」とは「教えて、育つと書く。知識を教えることは大切であるが、いろいろな体験や経験を通じて、「気づき」を与えることも必要だ。



すなわち「気育」。これは一つの例である。

これから社会が求めるのはグローバル人材。企業が欲するグローバル人材とは、英語を代表格とする言語能力に長けているだけではない。他国の宗教・文化や外国人の価値観への理解があり、論理的な思考力を持つこと。さらに専門分野に精通した知識や資質も必要である。必須のコミュニケーション力はこれらの複合力であるともいえる。

「気づき」から「築く」

冒頭で紹介をした海外学習プログラムは夏休みに行い、今度の夏で3回目となるが、ホームステイや語学留学とは目的が異なり、海外での行動を通じてグローバル人材に不可欠な強い志とダイバーシティ(多様性)への適応力を育む。文化・宗教をテーマとした英語授業と現地学習はもちろん、シエトロ、日系企業、外資系企業の訪問や地元大生との2言語交流など、さまざまな角度からの気づきの学習が盛り込まれている。このプログラムで重要視しているキーワードは「TRY TRY TRY(チャレンジ)」と「FAIL LEARN, FAIL LEARN(失敗から学ぶ)」。失敗を恐れず、自ら求め、考え、行動すること。「コミュニケーションをとるときは相手を受容すること、相手に受容をしてもらうことを意識する。」

多忙で多感な高校時代に学べることに限りはあるが、気づきから築く。そんな学習プログラムを今後も続けていきたい。